

牛群検定通信 No102

～暑熱対策と防寒対策の両立～

「命の危険のある猛暑」と報道されたのも束の間で、いつの間に秋も深まり冬の寒さ対策を準備する季節となりました。

1 牛群検定気象情報カウダス

昨年10月の主な酪農主産地の気温は次の通りです。

各都道府県は、インターネットで「カウダス」で「検索」してください。

	最高 (MAX)	平均	最低 (MIN)
十勝	13.3 (26.0)	8.2	3.1 (-6.1)
岩手	15.7 (27.0)	11.2	6.8 (-2.7)
栃木	18.1 (29.3)	14.1	10.7 (-1.4)
愛知	21.5 (30.4)	18.1	15.2 (1.0)
岡山	19.4 (29.5)	15.7	12.3 (-0.8)
熊本	23.1 (30.8)	18.8	15.0 (0.8)

2 10月の気象

前述の気温で、「最高」とは毎日の最高気温の平均、「MAX」とは1カ月間で記録した一番高い気温です（最低とMINも同様）。一般に乳牛は24度以上で乳量減少、13度以下で子牛死亡事故が増えると言われています。すると、10月の気温は高温での搾乳牛の暑熱対策と、低温での子牛の防寒対策の両方が必要となる繊細な季節となります。

3 防寒対策の準備

暑熱対策は今シーズンの最終段階です。そのまま継続してください。防寒対策は子牛管理が中心となります。

(1) ジャケット等

慌てないように準備しましょう。洗濯や虫干し等を行いましょう。

(2) カーフハッチ

野外設置のカーフハッチは、十分な日当たりを確保し直接風が当たらないように開口部を夏場と逆にします。また、敷きわらも十分に与えます。

(3) 赤外線ヒーター等

清掃しテストを行ってください。付着したホコリは発煙等の事故の原因になることもあります。

(4) 初乳や代用乳の給与温度

冬季は冷めやすいので、やや高めとします。給与時に親牛の体温程度（約39度）となるようにします。ただし、あまりに高温とするのは厳禁です。

4 飼料の切り替え

イネW C SやS G S等のように、夏季と冬季で切り替える場合は、慌てずに時間をかけて行います。急変は、ルーメンの異常発酵を招き、アシドーシスの原因ともなります。検定成績表のP／F比が0.9以上の場合は要注意です。